

「胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術の有用性」

に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：（倫理委員会審査承認日を入れる）～ 2022年3月31日

〔研究課題〕

胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術の有用性に関する臨床研究

—後ろ向き多施設共同研究—

〔研究目的〕

本研究の目的は、胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術に関する多施設調査を行い、この手術をなされた患者さんのデータを集積し、本手術の安全性や問題点を明らかにすることです。

〔研究意義〕

リンパ節転移を伴わない、あるいはその確率が低い胃粘膜下腫瘍に対し、2008年、腹腔鏡内視鏡合同手術：LECSが発表され、2014年に本手術は保険収載されました。この手術は腫瘍を腹腔鏡と内視鏡で観察し、腫瘍の全貌を把握し、切除範囲を最小限にすることで、胃の変形を予防する方法となります。現在では多くの施設で本手術の導入が進み、胃粘膜下腫瘍の治療法の一つとなっています。

本研究によりLECSに関するデータを集積・分析することで、今後の治療に役立てられます。

〔対象・研究方法〕

2014年4月から2016年3月に帝京大学ちば総合医療センター外科においてLECSを施行した患者さまを対象として、検査所見や治療内容、予後等を集計します。

〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター外科

研究代表者：外科 講師 森幹人

〔個人情報の取り扱い〕

個人情報は秘匿化し厳重に管理します。研究の成果を発表したり、それをもとに特許等の申請をしたりする場合にも、あなたが特定できる情報を使用することはありません。

対象となる患者さまで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。